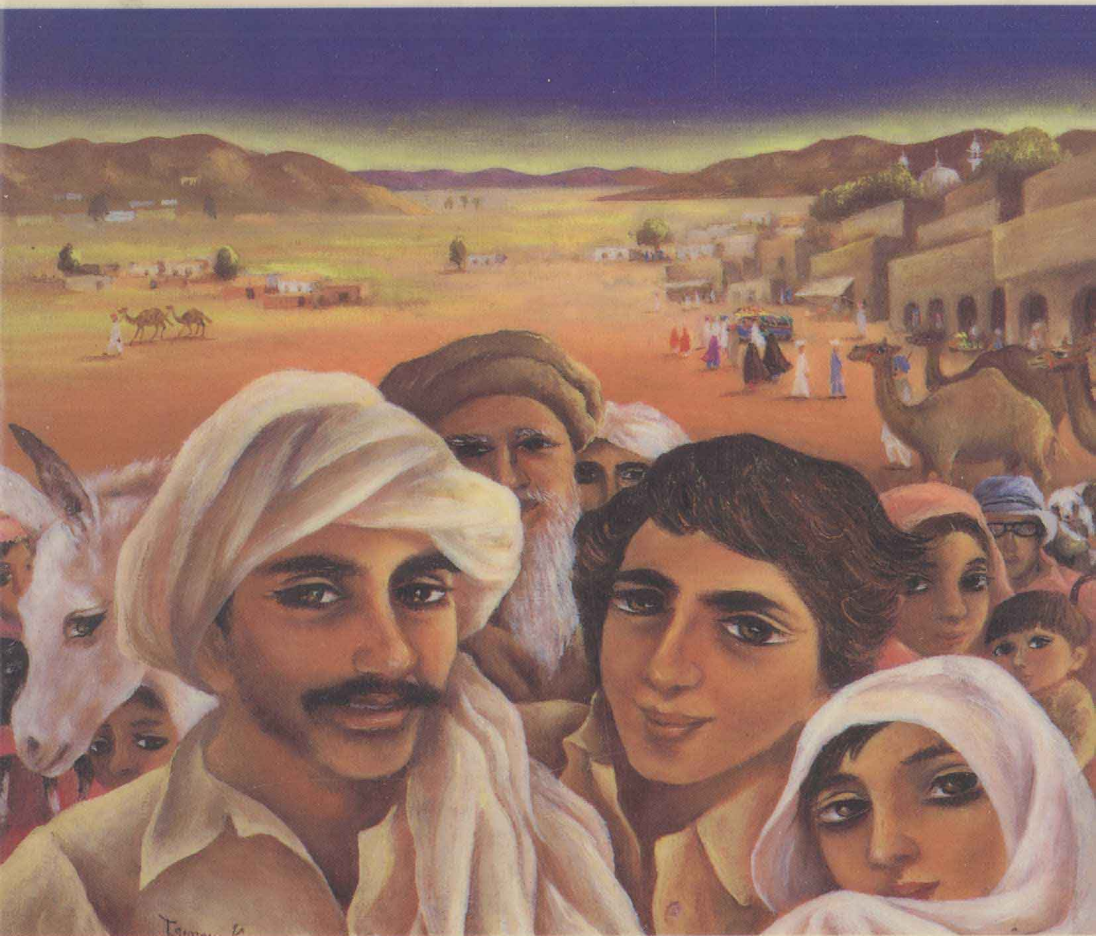


つき ほし くに

月と星の国

父のパキスタン通信



著 一雨達 井福 学園学止

絵 也卓金 代常金田

月と星の国 — 父の پاکستان通信 —

1984年6月 1刷
1984年7月 2刷



著者 ● 福井 達雨
画家 ● 金田 常代 / 金田 卓也

発行者 ● 今村 廣

多色印刷 ● 大昭和紙工業株式会社
本文印刷 ● 新興印刷製本株式会社
製本 ● 常川製本株式会社

©T. FUKUI, T&T. KANEDA. 1984 ISBN 4 03 814080 6 NDC 289 240p.

発行所 ● 株式会社

偕成社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5

編集 (03) 260-3229 (代)
その他 (03) 260-3221 (代)

振替 東京 51 / 352番

◇ 落し本・凡し本はおとりかえいたしません。

Published by KAISEI SHA, Printed in Japan.

つき ほし くに

月と星の国

父のパキスタン通信

止揚学園福井 達雨＝著

金田常代・金田卓也＝絵



画家 金田常代（かねだ つねよ）

茨城県生まれ。小学校、幼稚園の教師を経て、学校教育ではできない、自由でゆたかな感性を育てる、子供たちのためのアトリエを開いて現在に至る。アジアの各地を旅して、長年にわたって子供をテーマに絵を描きつづけ、1979年の国際児童年には、インドとネパールで作品展をひらく。長男卓也との共作の絵本に、絵本にっぽん賞を受賞した「ロミラのゆめ」(偕成社)がある。この本の表紙と本文さし絵を描いている。

画家 金田卓也（かねだ たくや）

1955年栃木県生まれ。東京芸術大学卒、美術史を学ぶ。19歳的时候、ギリシアからインドまでバスと鉄道で旅し、以来1年の大半をアジアの国々にですごす。1979年、インド政府主催エッセイコンテストで受賞。1980年から81年までネパールに滞在して伝統文化の記録映画を制作。作品には、映像詩“A JOURNEY INTO THE PAST”、絵本「ロミラのゆめ」「アブドルのぼうけん」(偕成社)などがある。この本の表紙カットと本文さし絵を描いている。

■著者紹介はP.238にあります。

みなさんへ

— 熱い人間に —

止揚学園 福井達雨

パキスタンの国旗には月と星があり
すが、そこにすむ人たちは、ひえびえと
した弱いきらめきではなく、太陽のよう
にあかあかと燃え、貧しくともはげしく、
温かく、イキイキと生きています。はん
たいに、物の豊かな日本は、冷たく、む
なしい月と星の国に思えます。だから、
太陽の国パキスタンの人たちの熱い生き
ざまをとおして、「熱い人間になれ」とい
う思いを、みなさんにつたえたいと思っ
て、この本を書きました。心に何かが響
いてくれることを祈りつつ……。



みなさんへー熱い人間に 福井達雨 3

日本で見える星が光っていました 父から子どもたちへ 10

大阪空港からパンコックへ 10 / おあらかなカラチ空港 12 / パキスタンの首都は？ 14

フンザはほんとうに長生きの国ですか 生から父へ 18

スイス人の日本の知識 18 / アジアの国の知識 21

雨がふると学校は休みです 父から子どもたちへ 24

体温よりも高い気温 24 / 学校は休み 26 / 平均寿命四十才 28 / インドから独立した国 30

毎日毎日が新しい体験です 義人から父へ 36

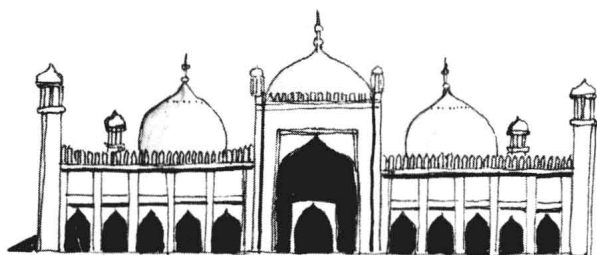
良いことも悪いことも 36 / 西遊記の舞台 37 / 文明と文化のちがい 38

夢で見たイスラム教の国 父から子どもたちへ 42

水不足の苦しみ 42 / 良い水がない 45 / イスラム教とヒンズー教 46 / 建国の父ジンナー 47 / 行動する人考える人 48 / タバコと人権 49 / 他者と共に 51 / 生へ 52 / 義人へ 53 / 啓示と揚へ 57

水をだいに使わんとあかん 啓示から父へ 58

ママゴンはうるさい 58 / 映画ガンジーと宗教 60 / 水がないなんて 62



幸福なときと不幸なときがまじりあつて
父から子どもたちへ

愛はやさしくきびしい 64 / ヒンズー教とイスラム教の争い 65 / 宗教とは 67 /
 アジアの国を侵略した日本 69 / 人間の二つの面 71 / 国誕生の苦しみ 71 / 異様なカラスのなき声 72

力は正義になるのか
義人から父へ

正しいとは？ 力とは？ 74 / 美しいものと汚れたもの
留守家族のようす 76 / 揚は大きなあかんぼう 77

人間と動物がまじりあつた国
父から子どもたちへ

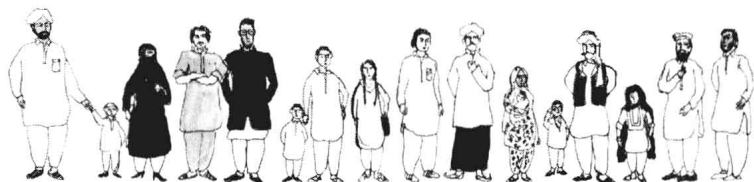
口の中はジャリジャリ くちのちゅうは じゃり じゃり	79	／人の間を ひとのまを	行き交うことは いきかうことは	80	／パキスタンの子どもたちは ぱきすたんのこどもたちは	81
動物と人と車の共存 どうぶつとひととくるまのきうこん	82	／ハエやカとも はえやかとも	84	／フィリピン人とバナナ ふりりんひととバナナ	85	／
公害・糞害と自然の危険 こうがい・ふんがいとぜんねんのきけん	86	／ふしぎなタクシー料金 ふしぎなたくしーりやうきん	87	／ダールやチャパティを食べる だールやチャパティをたべる	88	／

パキスタンでは豚を食べないんですか
啓示から父へ 92

竹の子のシーズン 92／運転手は損をしませんか 94／なぜ豚を食べないか 95／サッカーは負け 96

こじき村を見てきました
父から子どもたちへ
97

101	考えがたのちがい	97	パキスタン料理	98	おいしいシシカバブー	99	からいからいカレー
102	紅茶はバツグンの味	102	こじきたち	102	こじき村の人びと	103	ほごりたかいこじき
107	ゆたかなものがまずしいものを	107	人間の知恵	108	物と心	109	やじうまたちの論争
112						105	



みんなが助けあうのは美しいことです 生から父へ 114

友だちとびんぼう旅行 114／助けあいがまずしさを 116

しかたがない、何とかなるさ 父から子どもたちへ 118

すさまじい竜巻 118／美しい湖 119／ラホールへの汽車の旅 120／運転手のおとしものをさがす 122／

毛布をかぶって歩く 123／旅先での病 125／おじいさんがくれた薬 126／新婚旅行のカップルたち 129／

しかたがない、何とかなるさ 130／助けあう心とことは 133

日本人はなかなか助けあいません 義人から父へ 134

いまはホタルのシーズンです 134／「サボれよ、アホやなあ。」 135／体に気をつけて 136

日没のアラビア海を見てきました 父から子どもたちへ 138

心が熱くなります 138／南十字星と心のふるさと 139／病気も暴動も心配いりません 141／

騒動をなぐる警官 143／アラビア海の夕陽 146／パキスタンの国旗 148／ウミガメと里心 149／

国旗が語る宗教のこと 151／イスラムは男尊女卑 153／女性がかぶる黒い布 154／

めずらしいスカート 155／変化の表と裏 156

いっしょにふろに入ったらよいのに 啓示から父へ 158

きれいな各国の国旗 158／おもしろい手紙 160

すわってオシッコをする男たち 父から子どもたちへ 162

トランプ野郎 162 / 女性は一人で歩かない 164 / 写真好きの人びと 166 / 男同士が手をつないで 167 /

首都イスラマバード 169 / 古いまらワールピンディー 170 / 職業と階級 172 /

写真へのもう一つの考え 173 / どこでも平気でオシッコをする男たち 175 / パキスタンは禁酒の国 176

スイスは日本人に差別的強い国です 生から父へ 179

日本は晴天つづきです 179 / テレビだけではわからないこと 181

日本人は金のことばかり考えている 父から子どもたちへ 184

政治の表と裏 184 / パキスタンの日本人観 187 / もう一つの日本人観 188 /

日本人学校の子どもたち 190 / 現地になじまない日本人たち 192 /

差別意識の強い人たち 194 / 根強い差別的心 196 / 女性を信頼しない人たち 199

パキスタンの子どもと遊んだらよい 啓示から父へ 202

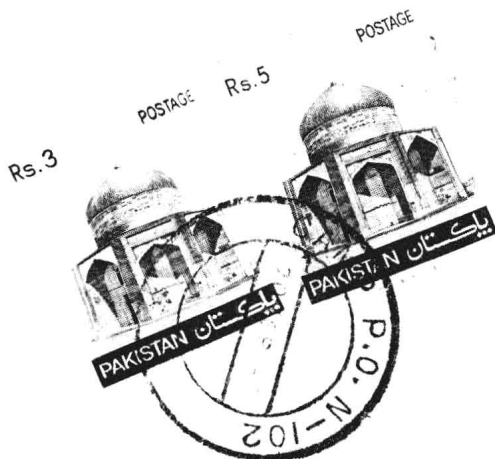
子どもたちはどんな遊びを? 202 / 日本人はきられていますか? 203

いちばんの娯楽は雑談と映画です 父から子どもたちへ 206

クリケットがさかんです 206 / かけごとは禁止 208

だれも知らないお客が? 209 / 映画が娯楽の中心 211 / 魚つりも好き 214 /

ピクニック 215 / 金曜日が休日 216 / ところかわれば 216



相手の立場にたって考えたい 義人から父へ 220

ほんとうの福祉とは 220／相手の立場にだつ 222

顔に油をぬられるお嫁さん 父から子どもたちへ 224

パキスタンの結婚式 224／お祝いのおどりと歌の合戦 226／新婦に油をぬる儀式 228／

一週間もつづくお祝いの式 229／パキスタンの風俗になれて 231

おわりに 福井達雨 234

装幀 ■ 市川寛志

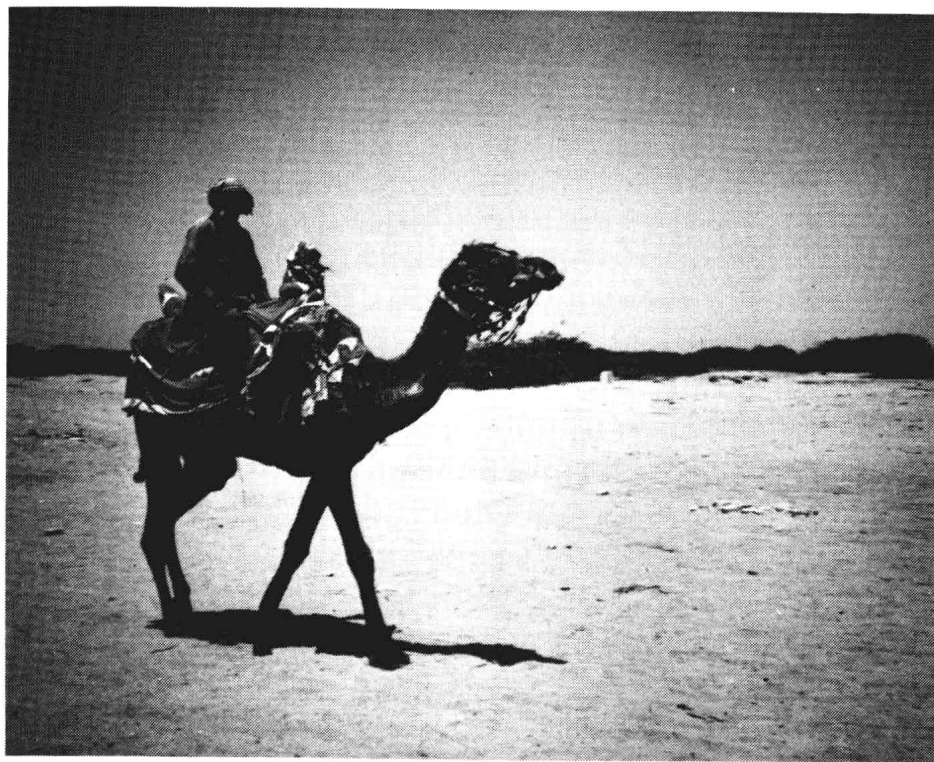
表紙画 ■ 金田常代 本文さしえ ■ 金田常代／金田卓也

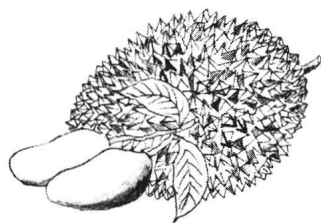
写真 ■ 止揚学園／金田卓也／岩瀬美子／パキスタン大使館／共同通信社／毎日新聞社

編集 ■ 野鳥社

月^{つき}と星^{ほし}の国^{くに}

父^{ちち}のパキスタン通信^{つうしん}





日本で見える星が光っていました



父から子どもたちへ

大阪空港から

バンコックへ

四月一日、大阪空港を出発しました。気象状況が悪かつ

たのか、飛行機がとてもゆれ、ドスン、ドスンとおちるた

びに、女の人们が「キャー」とさけび、あまり飛行機が

好きでないお父さんは、からだをかたくしていました。その中で日本がだ

んだん遠く、小さくなってゆきます。なんだかとても心ほそくなり、ここ

へまた帰ってこれるのは、六か月も先かと思うと、胸がジーンと熱くなり

ました。

香港で飛行機をのりかえ、タイのバンコックについたのは夕方でした。

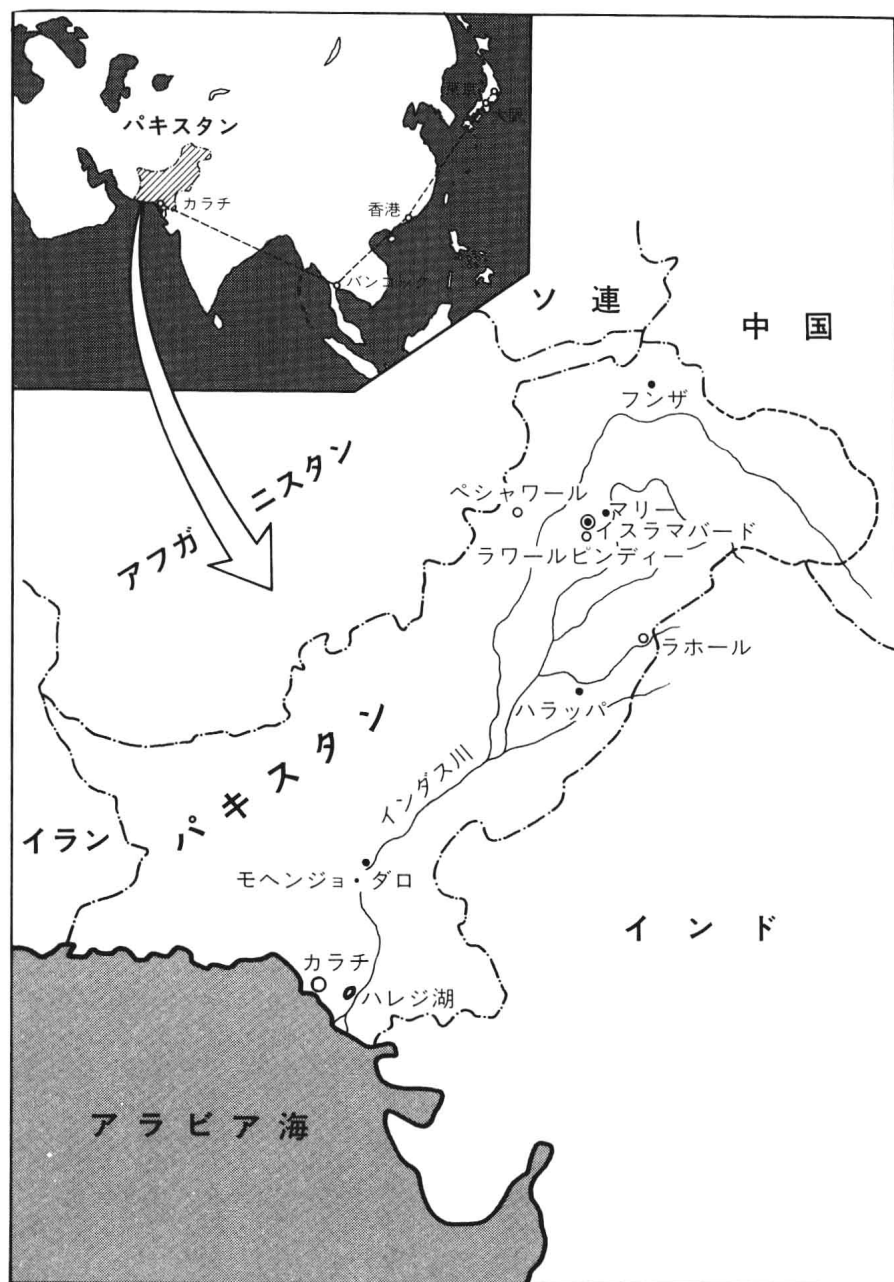
タイは今、くだものの王様といわれるドリアンや、くだものの女王、マ

ンゴーの季節です。ドリアンは表面にトゲがたくさんあり、そのかたいか

らをわると、白いクリームのような実がでてきます。口にいれるとあまく

ておいしいのですが、にんにく・にら・ねぎ・玉ねぎをいっしょにしたよ

うな、強烈なおいがして、ホテルやのりものには、もちこみ禁止です。





このにおいがいやで、ほとんどの日本人はドリアンをたべませんが、お父さんは平気でたべます。

マンゴーはとてもあまくて、口の中でとろけます。一つたべたら二つ、二つたべたら三つとほしくなるほどおいしいくだものです。お父さんは毎日、毎日、ドリアンとマンゴーをたべ、ニコニコ顔でした。

九日間、バンコックですごし、四月十日に目的地、パキスタンのカラチ空港につきました。日本を出発したときはすこし寒かったのですが、こちららもう、真夏です。飛行機をおりると、ムツとする暑さがかからだをつつみ、汗がふきできました。お父さんは、かなり緊張ぎみでした。時は午前二時、真っ暗な中で、ふと、空をみると、頭上に北斗七星がキラキラとかがやき、カシオペア座、オリオン座の星がまたたいていました。"日本でみえるのと同じ星がひかっている。"と、なつかしくなりました。

おおらかな
カラチ空港
カラチ空港の税関では、健康状態を書き入れた用紙と、入国に必要な書類をだただけでした。飛行機からの荷物をうけとるのに一時間以上もまちましたが、荷物検査もなく、ガラ



▲ダー・ウル・クッシュヌード

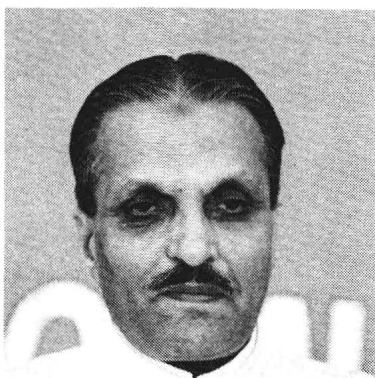
パキスタンではじめて作られた、おもい知恵あぐれの子どもたちの学校。

▼校庭で遊ぶ、障害をもった子どもたち。



ンとした無人の中を、サッサと外にでました。日本の空港だったら、荷物
はすぐうけとれますが、荷物検査のため行列をつくり、長い時間がかかる
のです。"ははん、このようなおおらかなやりかたが、パキスタンのなんだ
な。"と、すこしおどろきました。

外にでると、むかえの人たちがきてくれていて、すぐに自動車に乗せら
れ、三十分ほどして、アザライアさんという友だちの家につきました。こ
の家はダー・ウル・クッシュヌード（パキスタンのことばで、幸
福の子どもの家という意味）という障害児学校の
中にあり、お父さんはこれから六か月間、ここで生活するのです。



◀パキスタンの大統領
モハマッド・ジア・ウル・ハック

パキスタンの
首都は？

とたずねると、

「カラチです。」とこたえたり、「えっ、パキスタンには、大統領がいるんですか？」

とびっくりしたり、ほとんどの人たちが、正しいこたえができませんでした。きみたちも、

さて、君たちはどのぐらい、パキスタンのことを知っているか。日本で多くの人たちに、

「パキスタンの首都と大統領の名前をいってください。」

「首都はイスラマバード、大統領はモハマッド・ジア・ウル・ハック（一九七七年から現在まで大統領）です。」

と大きな声でこたえられなかったでしょう。イスラマバードという名前には、イスラム教を信じる人たちが新しく住むところという意味があるそうです。

お父さんは多くの日本人がパキスタンについて

高台から見おろしたカラチのまち▶
パキスタンで一番の大都会です。



何の知識も理解もないことがとても悲しかったのです。日本もパキスタンもアジア州の中にあります。なのに、アメリカやヨーロッパの国のことを比較的よく知っている日本人が、自分たちが住んでいるアジアの国のことを、あまり知らうとも、学ぼうともしません。これを灯台もと暗しというのでしうか。それとともに、お父さんはつぎのようにも考えています。私たち日本人は、アジアの多くの国は、日本とくらべて貧しく、きたない後進国だと思ひ、軽視してあります。それと反対に、アメリカやヨーロッパの国々はすぐれた先進国として、学び、そこから何かを得ようとしてあります。この考えかたに、アジアのいろいろな国に対する日本人の差別の心を感じるのです。

こちらにきてみると、走っている車・電気製品・時計・カメラ・衣服などは、ほとんど日本製です。そしてパキスタンの人たちは、「日本はすばらしい。お金持ちの国だ。私たちは日本に助けられている。」